

広瀬層塔（鎌倉時代後期）

（広瀬）

広瀬川の左岸、広瀬集落の背後の水田の隅にこの塔が立っている。

この塔から南西約300メートルの所に広瀬廃寺跡がある。

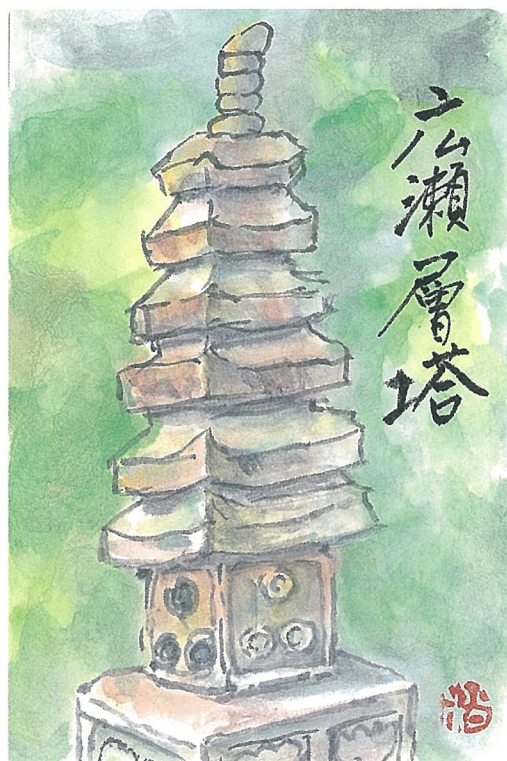
現在、塔の屋根は6枚であるが、四重目までは、形がそろっているが、上部の2枚は後世に造られたと思われる。

元は、岩倉の永昌寺えいしょうじの塔と同じ13重塔であった可能性が強い。

基礎の側面は、壇上積式だんじょうつみしきの輪郭によって2区に分け、その中に格狭間こうざまを作る。初重しゅじゅう軸部じくぶは輪郭を巻き、中に3個のしょうげ小月輪りんを陽刻し、月輪内には梵字ぼんじを陰刻いんこくしている。

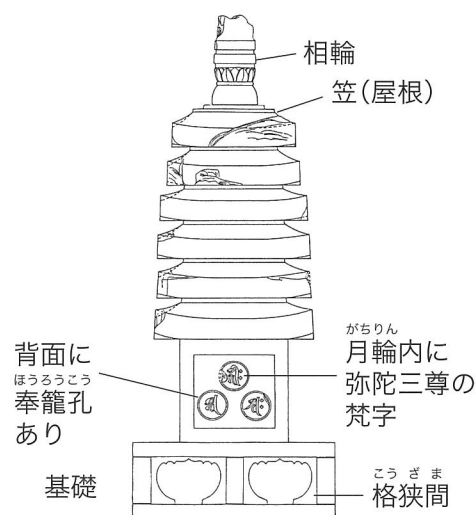
背面の一面には他面と同じ位置に円形の深い奉籠孔ほうろうこうが造られている。その口縁部には蓋をはめる段が作られているので、他の面と同じような阿弥陀三尊あみださんそんの種子しゅじを刻んでいたと思われる。

永昌寺塔（岩倉）より少し年代が下るものと見られる。



(注)

種子：密教で仏、菩薩を表示する、梵字。



広瀬層塔